

令和6年度 研究成果報告書

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた調査研究

児童生徒主体の学びをつくる ～今求められる、『教師の出番』～



令和7年2月
香川県教育センター

はじめに

令和3年1月26日、中央教育審議会は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」を出しました。

教育センターでは、全ての児童生徒が自立した学習者として育つ姿を目指し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業の在り方を、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通じてイメージできるよう提案し、県内の教員の指導力向上を図りたいと考えました。

本報告書では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる教師の働きかけを、「一体的な充実に向けた4つの『教師の出番』」として整理し、概要を冊子の初めに簡潔に示しました（p4、5）。この概要のページは、より多くの教職員の皆様にご拝読いただけるよう、リーフレットとしても当センターHPからデータでダウンロードできるようにしています。

4つの「教師の出番」の詳細については、第2章で、各協力学校の取組みを基に説明しています。各協力学校では、見通しをもつ活動を充実させ、学習教材や解決方法、学習形態等を自己選択・自己決定しながら学ぶことができるようしかけたうえで、児童生徒を信じ、学びを委ねていました。また、児童生徒の言葉に耳を傾け共感的に受け止めたり、手が止まっている場合には別の選択肢を示したり、その子らしく取り組む姿を見つけて賞賛したりと、個に応じたきめ細やかに指導を行っていました。そして、子どもたちの学びを充実させるために有効な働きかけを討議して授業改善に努める「ともに学び合う教職員集団」の姿がありました。

各学校におかれましては、4つの「教師の出番」に注目して、校内において実施する相互参観授業後の振り返りの充実を図っていただいたり、授業改善のヒントとして本報告書を校内研修等で活用いただいたりするなどして、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した実践が一層推進されますようご期待申し上げます。

当センターでは、指導主事等が直接学校に出向き、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実について一緒に考えるなど、一層の学校支援に努めてまいりますので、どうぞ、ご相談ください。

最後になりましたが、研究に協力してくださった、高松市立国分寺中学校、高松市立円座小学校、坂出市立松山小学校、綾川町立綾川中学校、綾川町立滝宮小学校、観音寺市立柞田小学校の校長先生をはじめ教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

令和7年2月

香川県教育センター
所長 福田 宏志

目次

はじめに	1
目次	2
調査研究について	3

第1章

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から、学習活動を充実させるために	9
1. 「個別最適な学び」の観点から	10
2. 「協働的な学び」の観点から	12
3. 多様な児童生徒の可能性を広げる ICT の活用	14
4. 学習活動を充実させるための教師の役割	16

第2章

一体的な充実に向けた4つの「教師の出番」	17
出番1 学びがいのある学習課題にする	18
出番2 自己選択・自己決定のある学習にする	20
出番3 必要感のある協働的な学びの場をつくる	22
出番4 意味のある振り返りにする	24

第3章

協力学校の取組に学ぶ	25
(1) 令和6年度協力学校の取組に学ぶ 一体的に充実させる児童生徒の姿と教師の働きかけ	26
①高松市立円座小学校の取組	26
②坂出市立松山小学校の取組	28
③綾川町立綾川中学校の取組	30
④高松市立国分寺中学校の取組	32
(2) 令和5年度協力学校の取組に学ぶ 児童生徒同士で学びを深めるための働きかけ	34
①綾川町立滝宮小学校の取組	34
②観音寺市立柞田小学校の取組	36
③高松市立国分寺中学校の取組	38
●教師の発話量を減らし、児童生徒の発話量・活動量を確保した学習	39
(3) 協力学校の取組を振り返って	40

調査研究について

◆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた調査研究成果の概要

◆研究の概要

- (1) 背景
- (2) 本県の状況
- (3) 研究の目的と内容
- (4) 研究の方法



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の

「個別最適な学び」の観点から

研究成果報告書
P10、P11

学習の進め方を自ら調整する力と、主体的に学習に取り組む態度を育成する



【指導の個別化】

- ・ 支援の必要な児童生徒に重点的な指導を行う。
- ・ 児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。

【学習の個性化】

- ・ 児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。

一体的な充実に向けた



出番1 学びがいのある学習課題にする

研究成果報告書
P18、P19

児童生徒が課題を自分事にし、主体的・対話的に学習に向かえるように・・・

① 自分事になる学習課題を設定する

深く考え、自ら解決したくなる

集団で解決する必要がある

の2つの要件から、学習内容や児童生徒の実態に応じた適切な課題を設定する。

② 見通しをもつ活動を充実する

学習対象との出会わせ方を工夫し、児童生徒一人一人が、学習の目的やゴールを明確にし、解決に向けた見通しをもつことができるようにしかける。



出番2 自己選択・自己決定のある学習にする

研究成果報告書
P20、P21

課題を自分事にした児童生徒が、課題解決に向かって、主体的に学習を進めていくことができるように・・・

① 学びに関する選択肢を示し、一人一人が自分の状況に応じて課題解決に取り組むことができる学習環境を整える

- | | | |
|--------|--------|------------|
| ・ 学習教材 | ・ 解決方法 | ・ 表現方法 |
| ・ 道具 | ・ 学習形態 | ・ 学ぶペース など |

② 何をどこまで委ねるかを見極め、見取ったことをフィードバックする



多様な児童生徒の可能性

- 自由に必要な情報にアクセス
- 学習における個々の

一体的な充実に向けた調査研究成果の概要

「協働的な学び」の観点から

研究成果報告書
P12、P13

多様な他者と豊かにかかわりながら問題解決していこうとする態度を育成する

個々の考えやよい点を尊重しながら交流し、自らの知識や技能を組み合わせたり、新たな価値を創造したりしながら解決する「個を生かす協働的な学びの場」を設ける。



4つの「教師の出番」



出番3 必要感のある協働的な学びの場をつくる 研究成果報告書 P22、P23

個を生かす協働的な学びの場となるように・・・

① 意図的、計画的に協働的な学びの場を位置づける

- (ア) 個々の課題に応じた小規模集団での協働的な学びの場
- (イ) 教室の中の多様性を生かし、学びを深めるための協働的な学びの場

② 児童生徒同士の交流によって学びが深まっていくように、ファシリテートする

- ・ 他者の考えと自分の考えの違いや多様な考えを意識できるようにする
- ・ 話し合う目的や視点を明確にする
- ・ 思考を可視化し、比較したり関連付けたりできるようにする
- ・ 問い返しのある学び合いを行えるようにする
- ・ 目的に合った小集団で学ぶことができるようにする

など

- ・ 児童生徒に「語らせ」、教師が「つなぐ」



出番4 意味のある振り返りにする 研究成果報告書 P24

児童生徒が学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるように・・・

① 見通しや探究の場面で、立ち止まって考える場を設ける

② 振り返りの視点から、自分の学びを価値付ける場を設ける

- 学習内容
- 学習過程（学び方）
- 自己の変容・課題の発見

を広げるICTの活用



研究成果報告書
P14、P15

- 困難さを軽減
- 効率よく他者とつながる

研究の概要

本調査研究について

(1) 背景

令和3年答申において、2020年代を通じて目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、「一人一人の子供を主語」に、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現するという目指すべき姿が示されました。

このためには、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに、教師自身の学びを転換することも求められています。

学習指導要領等の改訂と実施

平成29年改訂幼稚園教育要領		小学校学習指導要領（平成29年告示）	
中学校学習指導要領（平成29年告示）		高等学校学習指導要領（平成30年告示）	
平成29・31年改訂特別支援学校学習指導要領		幼稚園教育要領 小学部・中学部	

新型コロナウイルス感染症拡大による影響

令和3年答申（2021年1月26日）
『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～

参考資料（2021年3月31日）
学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料

小学校等、中学校等 GIGA スクール構想による1人1台端末の導入

内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（2022年6月2日）
「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」

1 (3) 認識すべき教室の中にある多様性・子ども目線の重要性 (小学校のイメージ) 2. 教育・人材育成システムの転換の方向性

令和4年答申（2022年12月19日）
『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～
「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～

令和6年答申（2024年8月27日）
『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について～全ての子供たちへのよりよい教育の実現を目指した、学びの専門職としての『働きやすさ』と『働きがい』の両立に向けて～

(2) 本県の状況

香川県学習状況調査の学校質問紙調査結果(図1)から、「学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している」と肯定的に回答している学校は、小・中学校ともに90%を超えていることが分かります。

協力学校の教員アンケート(図2)においても、「個に応じた指導」に関する質問項目に肯定的に回答している教員が90%を超えています。これらのことから、「個に応じた指導」がきめ細やかに行われ、充実していることが分かります。

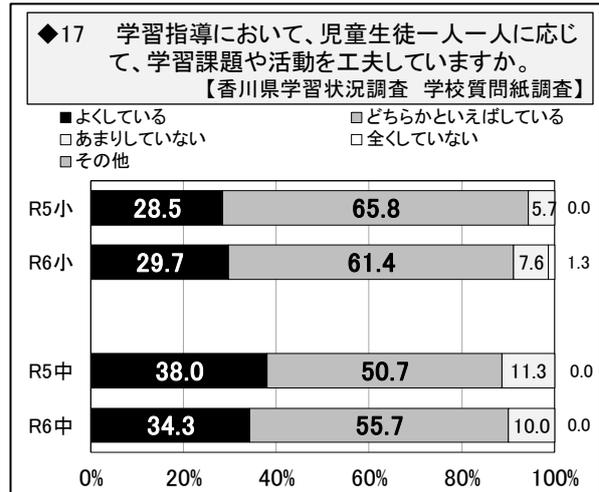


図1 令和6年度香川県学習状況調査の結果

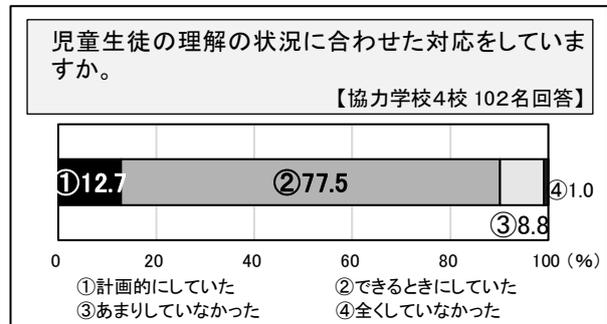
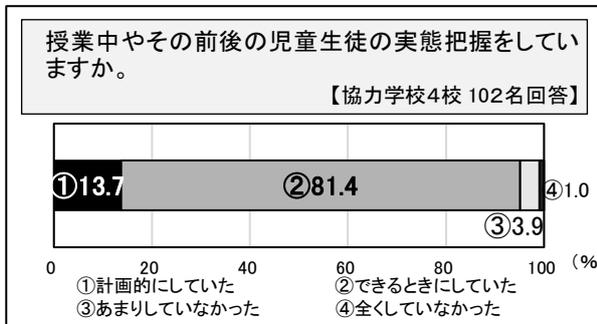


図2 協力学校の教員アンケート【授業づくりの取組状況】

また、香川県学習状況調査の学校質問紙調査結果(図3)では、「児童生徒の話し合う活動によって学びを広げたり深めたりする機会をもうけている」と肯定的に回答した学校の割合が、小学校で95.6%、中学校で88.6%でした。児童生徒の「対話的な学び」が、授業の中で積極的に行われていることが分かります。

一方、協力学校の教員アンケート(図4)で、「個別最適な学び」について「聞いたことはあるが、あまり分からない」「初めて聞いた」と42.9%の教員が回答しています。「協働的な学び」についても同様の結果が見られました。このことから、「個別最適な学び」や「協働的な学び」についての捉えが曖昧なためどのような授業を行えばよいのか、これまでの取組をどう生かせばよいのかなどが、判然とせず戸惑っているという学校の現状が見えてきます。

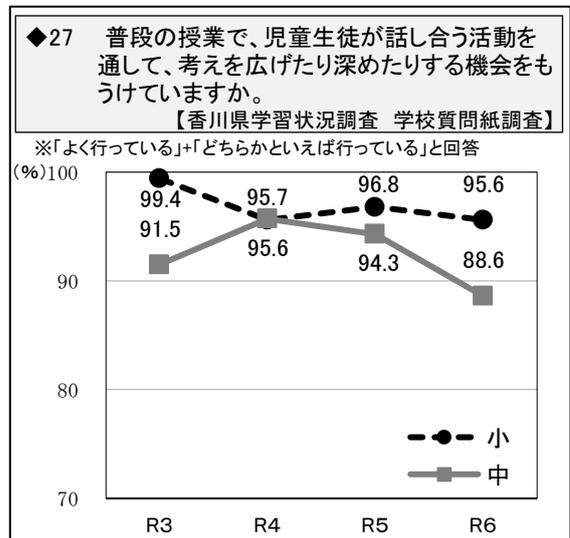


図3 令和6年度香川県学習状況調査の結果

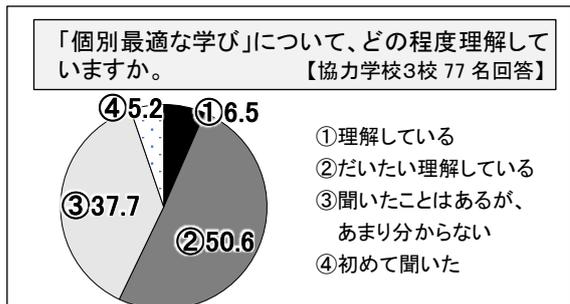


図4 協力学校の教員アンケート【認知度調査】

(3) 研究の目的と内容

令和3(2021)年1月26日に出された中央教育審議会答申(以下令和3年答申)を受け、全ての児童生徒が自立した学習者として育つべく、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点からこれまでの学習活動の方向性を改めて捉え直します。そして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通じて「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業の在り方をイメージできるよう提案するとともに、県内の教員の指導力向上を図りたいと考えました。

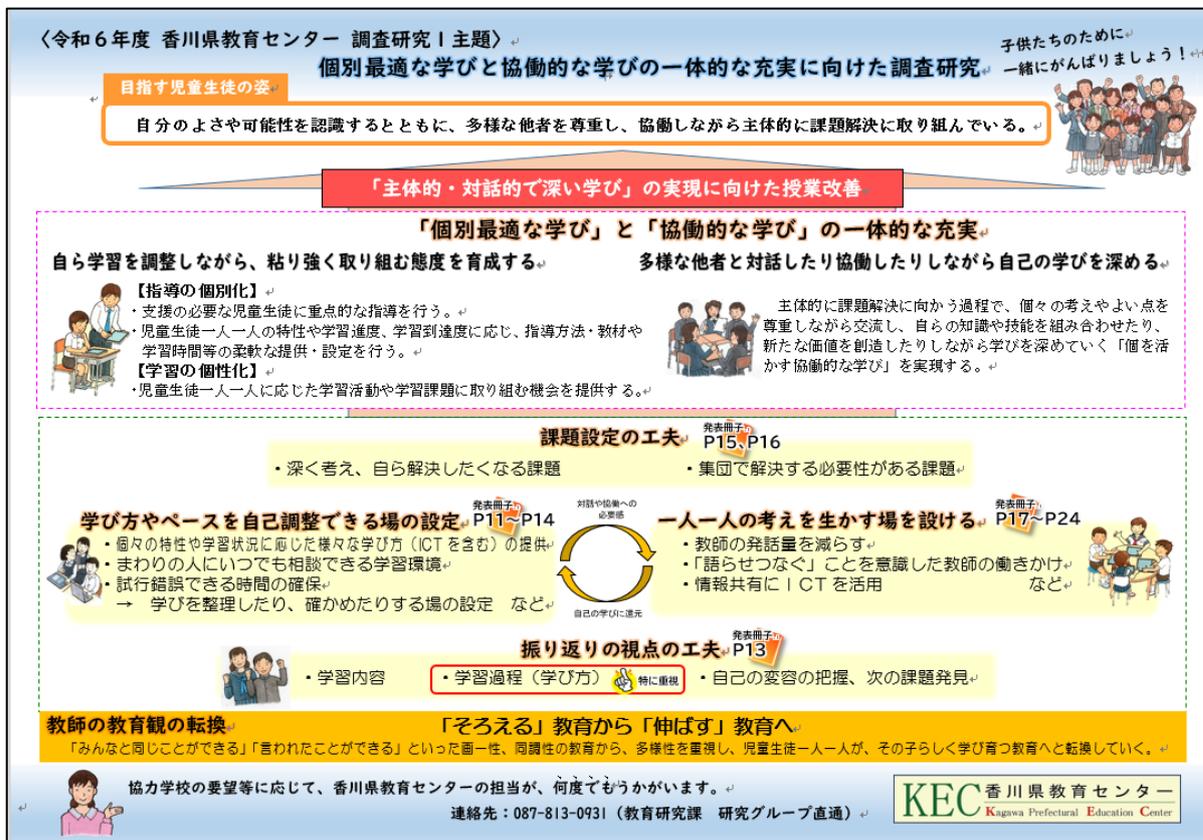
本テーマでの調査研究1年目となる令和5年度は、「個別最適な学び」を支える環境づくりや個を生かす「協働的な学び」の在り方から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実する授業について整理しました。

その成果として、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進め資質・能力の育成を目指すことは変わるものではなく、これをよりアダプティブな視点で捉え直す必要があることが分かりました。

調査研究2年目である令和6年度は、昨年度までの成果を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実している児童生徒の姿を明らかにし、そのための教師の役割を「教師の出番」として提案します。

(4) 研究の方法

香川県教育センター協力学校等の実践や先行研究を基にして、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実』をテーマに、調査研究(2年次)を行いました。



(第1回学力向上モデル校事業推進会議(2024.4.30)資料)

第1章

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から 学習活動を充実させるために

本章では、まず、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から、学習活動をどのように充実させていけばよいかの方向性を整理していきます。

1. 「個別最適な学び」の観点から

- (1) 「個別最適な学び」とは
- (2) 学習者の視点で「個に応じた指導」の充実を図る
 - ① 学びに関する選択肢を示し、一人一人が自分の状況に応じて課題解決に取り組むことができる学習環境を整える
 - ② 児童生徒の学びを見取り、見取ったことをフィードバックする
 - ③ 児童生徒が学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるようにする

2. 「協働的な学び」の観点から

- (1) 「協働的な学び」とは
- (2) 「個を生かす」視点から「協働的な学び」の充実を図る
 - ① 集団で解決する必要感をもって協働的な学びの場に臨めるようにする
 - ② 一人一人の考えを生かし学びを深めていけるようファシリテートする
 - ③ 児童生徒が「協働的な学び」の成果を自覚できるようにする

3. 多様な児童生徒の可能性を広げる ICT の活用

- (1) 自由に必要な情報にアクセスできるようにする
- (2) 学習における個々の困難さを軽減できるようにする
- (3) 効率よく他者とつながることができるようにする

4. 学習活動を充実させるための教師の役割

第1章「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から学習活動を充実させるために

1. 「個別最適な学び」の観点から

(1) 「個別最適な学び」とは

令和3年答申では、新しい時代を見据えた学校教育の姿として、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」の実現の必要性が示されています。また、「個別最適な学び」について、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されています。

指導の個別化	学習の個性化
教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなど	子供自身が学習が最適となるよう調整できるように、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することなど
→ 全ての児童生徒が、一定の目標を達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める	→ 個々の児童生徒が、異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

そして、「個に応じた指導」を、学習者の視点から整理した概念であると述べられています。

ICTの活用や児童生徒の主体性を重視し、多様な児童生徒一人一人の可能性を最大限に引き出す授業づくりを目指すことで、「**学習の進め方を自ら調整する力と、主体的に学習に取り組む態度を育成する**」ことが求められています。

(2) 学習者の視点で「個に応じた指導」の充実を図る

児童生徒が、自ら問いを見だし、見通しをもって粘り強く取り組み、その過程でうまくいったことやうまくいかなかったことを振り返り、自己調整しながら学習を進めていくことができるように、教師は、「個に応じた指導」を充実させていく必要があります。

香川県教育委員会が提案する授業づくり2つの柱^{※2}に示されるように、私たちは、これまでも「個に応じた指導」を大切にしてきました。授業中やその前後に目の前の児童生徒の実態を把握し、その理解の状況に応じて対応する「個に応じたきめ細やかな指導」は、一人一人の課題解決を支えるとともに、自分に合った学習の進め方を身に付けることにつながるでしょう。そのうえで、徐々に、学び手としての主人公である児童生徒自身に、学びの主導権を委ねていくことが必要となってきます。

それでは、今後はどのように「個に応じた指導」を行っていけばよいのでしょうか。3つの視点を提案します。



※2 これからの「さめぎの教員」に求められる授業づくりの三訓と2つの柱リーフレット、2021、香川県教育委員会



① 学びに関する選択肢を示し、一人一人が自分の状況に応じて

P20「出番2」

課題解決に取り組むことができる学習環境を整える

「個に応じた指導」において、これまで以上に児童生徒の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められています。しかし、教師が、児童生徒一人一人に応じて、全員分の指導方法や教材等を準備することは現実的に不可能です。そのため、学習に関して児童生徒に委ねる部分を設け、自分たちで課題を決める、課題解決に向けて見通しを立て、どの方法を用いて解決していくか、どのようなペースで学んでいくか自分で決めるなど、自己選択・自己決定のある学習にすることが必要です。

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すものであることから、これまで同様、単元や題材など内容のまとまりを通して、児童生徒の課題意識を大切に、見通しをもって学ぶ姿、課題解決に向かって対話する姿などを想定して授業づくりを進め、個に応じた手立てを用意することは変わりません。

そのうえで、これらを教師から一方的に与えるのではなく、学びに関する選択肢として示し、一人一人が自分の状況に応じて課題解決に取り組むことができる環境を整えることが、「個別最適な学び」を充実させることにつながるでしょう。



② 児童生徒の学びを見取り、見取ったことをフィードバックする

P20「出番2」

自己選択・自己決定のある学習にするほど、学級の中に複線化した学びが起こります。この際、さらに個に目を向けた教師の見取りが大切になります。個々に違う取組をしているからこそ、手が止まっていたり、誤った方向で解決を進めたりしている場合には、その理解の状況に応じた教師の支援が必要です。また、課題解決に向けて粘り強く取り組んだり、諦めずにやり抜いたりする姿が見られたときには、称賛したり励ましたりすることが、自分では気付きにくい学び方のよさを自覚することにつながるでしょう。

③ 児童生徒が学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるようにする

P24「出番4」

児童生徒が自律的に学習を進める力を身に付けるためには、自分事の課題を、自分の力で解決し、その過程を自覚できるように、意味のある振り返りにすることが大切です。すでに県内の多くの学校で、振り返りの視点から自分の学びを価値づける場を設け、学習内容だけではなく、学び方や自己の変容を振り返ることができるように工夫されています。

このことに加え、見通しや探究の場面で、立ち止まって考える場を設け、児童生徒が自分の学びをメタ認知（俯瞰的に捉える）できるようにすることも大切です。例えば、見通しの場面で「なぜそのような見通しをもったか」と問い返すことで、これまでの学習とつないで発想したことを自覚することができるでしょう。また、探究の場面で学習のまとめをする前に、見通しをもって取り組んだことについてその成果を振り返る場を設けることで、既習事項から見通しを立てて学習を進めることのよさを自覚することができるでしょう。

2. 「協働的な学び」の観点から

(1) 「協働的な学び」とは

令和3年答申では、『個別最適な学び』が『孤立した学び』に陥らないよう、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実することも重要であると、述べられています。探究的な学習や体験活動などを通じ、「多様な他者と豊かにかかわりながら問題解決していこうとする態度を育成する」ことが求められています。

(2) 「個を生かす」視点から「協働的な学び」の充実を図る

「協働的な学び」については、これまでも、県下の各学校で、児童生徒がともに学び合ったり、認め合い高め合ったりすることを重視した取組が進められてきました。そのような取組の中で、次のような児童生徒の振り返りの記述を目にされた先生方も多いのではないのでしょうか。

最初はよく分からなかったけれど、みんなで話し合ったり、意見をもらったりすると、よく分かった。

なぜそう考えたのか友達に説明すると、自分がよく分かっていなかったところがはっきりとしてきて勉強になった。

〇〇さんの意見には最初はびっくりしたけれど、話を聞いていると、そんな考え方もできるのだとわかった。次は、その視点で考えてみたい。



個々の考えやよい点を尊重しながら交流し、自らの知識や技能を組み合わせたり、新たな価値を創造したりしながら解決する「個を生かす協働的な学びの場」が設けられていると考えられます。香川県教育センターでは、このような状態を一体的に充実した状態と捉え、「個を生かす」視点から「協働的な学び」の充実を図りたいと考えました。単元の学びの中で、どのように位置づけるか計画することが大切です。

では、協働的な学びの場で、児童生徒一人一人が自分の力を発揮できるようにするには、また、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりできるようにするためには、どのようなことに留意する必要があるのでしょうか。3つの視点を提案します。

① 集団で解決する必要感をもって協働的な学びの場に臨めるようにする

P18「出番1」、P22「出番3」

集団の学びの中で、一人一人が自分の力を発揮できるようにするためには、児童生徒の「解決したい」「みんなで学び合いたい」といった思いや願いを引き出す、**学びがいのある学習課題にする**ことが必要です。例えば、適度な難易度であり、他者と相談しながら解決したいと思える学習課題であれば、自然と「主体的・対話的」な学びが生まれるでしょう。

また、児童生徒が課題解決途中で自分の考えとのずれに出合うことで、「なぜだろう」「話を聞いてみたい」という思いを高めることもできるでしょう。協力学校では、互いの考えの違いを捉えられるように工夫し、児童生徒に交流の相手やタイミングを委ねることで、個々の課題に応じた小規模集団での協働的な学びの場を生む取組も見られました。

② 一人一人の考えを生かし学びを深めていけるようファシリテートする

P22「出番3」

必要感のある協働的な学びの場において、個々の学びが集団の学びを通して深まるようになるためには、ファシリテーターとして児童生徒の思考を方向付ける教師の働きかけが必要です。一人一人のよい点や可能性を生かし、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していけるような交流となるよう、児童生徒に「語らせ」、教師が「つなぎ」ながら思考を方向付けます。授業前と授業中の児童生徒の見取りが、よりよい学び合いをつくる鍵となるでしょう。

③ 児童生徒が「協働的な学び」の成果を自覚できるようにする

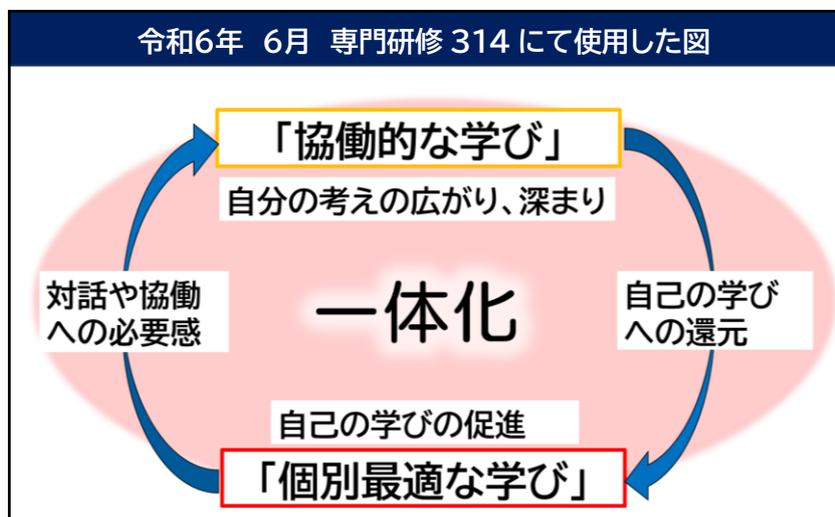
P24「出番4」

「協働的な学び」の中での個々の学びは、聞くだけで終わらせてしまうと曖昧な理解にとどまってしまうことがあります。そのため、その成果を自覚できるように、交流後に、立ち止まって考える場を設けることが大切です。交流後の、自分の考えの広がりや深まりを自覚することが、協働的に学ぶことのよさを実感するとともに、学習の過程に目を向けた振り返りにつながるでしょう。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるために

令和3年答申では、「各教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である』と述べられています。

このことを受け、下のような図を作成し、一体的に充実させるイメージについて共有を図りました。



3. 多様な児童生徒の可能性を広げるICTの活用

令和3年答申に述べられているように、新たに学校教育における基盤的なツールとなるICTを活用することで、これまででない量・質のデータを収集・蓄積・分析・活用し、個々の特性等にあった多様な方法で児童生徒が学習を進めることができる可能性が高まっています。例えば、次のような視点で、活用方法を考えてはどうでしょうか。

(1) 自由に必要な情報にアクセスできるようにする

授業支援クラウド等を活用することによって、これまで難しかった学習材の準備の時間を短縮し、次のように児童生徒自身が、様々な学習材から自らに適したものを選択する学習環境を整えることができます。

授業支援クラウドの活用例

- ・資料箱から実態に応じたヒントカードを選択
- ・シミュレーションなどデジタル教材を用いた学習
- ・インターネットを用いた情報収集 ・写真や動画等による記録
- ・AIドリルで練習問題 ・生成AIの活用
- ・必要なタイミングで他者参照



(2) 学習における個々の困難さを軽減できるようにする

特別支援教育では、以前からICTの活用が推進されており、ますますその効果が期待されています。通常学級においても、発達障害などによって学習に困難を抱えている場合があります。教師には、こうした児童生徒の困難さに気付く目を養いつつ、困難さを軽減できる方法を見出していくことが求められます。児童生徒が得意な学び方を見付けるとともに、自分の苦手や困難を補う方法を知ること大切です。例えば、次のような苦手や困難を補うことができます。

困難さの例	ICTの活用法の例
読むこと	<ul style="list-style-type: none">・テキストの読み上げ機能により、音声で聞く。・文字などを拡大する。・背景や文字の色を見えやすい色に変える。・デジタル教科書を使う。
書くこと	<ul style="list-style-type: none">・キーボードで入力する。・手書きパレットを使う。・黒板や記録したいものを撮影する。・共同編集機能を使う。
聞くこと	<ul style="list-style-type: none">・音声認識機能によって、文字化。映像と言葉での説明を見る。
話すこと	<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末に、絵や写真を貼り付ける。・キーボードで入力する。

このように、ICTを活用し、苦手や困難を補い、自分に合った方法で学習できるようにすることは、児童生徒が、「一人でできた」、「友達と一緒にできた」という達成感や自信、成功体験の積み重ねによる自己肯定感の高まりなどを得ることにもつながるでしょう。

(3) 効率よく他者とつながることができるようにする

これまででも、児童生徒同士の考えを交流させ、自分の考えを深める授業が大切にされてきました。しかし、ペアやグループでの学習においては、次のような課題があり、思うような活動ができないこともありました。

集団の規模	個人	ペア	少人数グループ	全体
課題	▲自分の考えをもつことができない児童生徒への支援が必要。	▲ペアの関係性に留意が必要。	▲発言できない児童生徒がいないか、留意が必要。	▲考えを表現しにくい雰囲気になったり、参加しない児童生徒がいたりしないか、留意が必要。



ICT を活用すると	○モニタリング機能を用いて、児童生徒用端末の画面を一覧表示すると、個々の学習状況を把握することができる。	○名前を非表示に設定すると、人間関係にとらわれず、内容で交流することができる。	○共同編集機能を用いると、全員で同じ画面やファイルに考えを書き込むことができる。	○児童生徒用端末の画面を一覧表示することで、参加していない児童生徒に気づきやすくなる。
	○選択した児童生徒のノートにだけヒントやコメントを書き込むことができる。	○児童生徒用端末の画面を一覧表示したり、何人かの画面を並べて表示したりすることで、似た考えや異なる考えが把握しやすく、目的に応じた小集団が組みやすくなる。		○話すことが苦手な児童生徒も、児童生徒用端末に考えを書くことで自分の考えを表出することができる。

ICT を活用すると、それぞれの考えを児童生徒用端末上で可視化したものを基に小集団を設定することができます。考えを記入するシートなどの色を指定しておくことで、考えの違いが一目で分かるというよさもあります。児童生徒用端末を活用して、互いの考えを比較し、その後の具体的な交流は、直接話し合うということもできるでしょう。ICT の強みの一つには、情報共有の速さが挙げられます。これまで、全員が考えを表出するには時間が足りず、自分の考えをもていても表出できない児童生徒がいましたが、ICT を用いることで、それぞれの考えの共有にかかる時間を短縮し、その分一人一人が考える時間や交流する時間を生み出すことにもつながることができます。



ICT をどこでどう使うか、学習者が決める ～学習者主体の ICT 活用～

前述したように、学習における児童生徒の苦手や困難を ICT によって補うことができる場合があります。学級の中で、「特別に自分だけ使う」というのは使いにくく感じることがありますが、教師が指示した場面で指示した使い方をするだけでなく、ICT を文具として自由に使える環境にしておくことで、児童生徒が自分に合った学習方法を選択し、力を発揮することにつながります。

もちろん、児童生徒に ICT の活用を委ねるには、トラブル等の心配もつきものです。しかし、児童生徒は、いつまでも教師や保護者の管理下にはありませんから、児童生徒が自らの判断で、安全によりよい ICT の活用ができるようにしていくことを同時に進めていくことも必要です。

4. 学習活動を充実させるための教師の役割

ここまで述べてきたことから、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実は、すべての児童生徒に資質・能力を育成することを目指し、一人一人に「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るためのアプローチであると考えられるでしょう。

そのためには、授業づくりにおいて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてこれまで各校で行われてきた取組を振り返って、何を重視すればよいか、どのような教師の役割が必要かを考え、整理することが大切です。

本調査研究では、昨年度の研究で明らかになったことや、これまでの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた先行研究、協力学校で見られた有効な働きかけを参考にして、一体的な充実に向けて、充実したい学習活動のねらいと重視すべき教師の役割を整理しました。

充実したい学習活動のねらい	そのために重視すべき教師の役割 4つの「教師の出番」
児童生徒が課題を自分事にし、主体的・対話的に学習に向かえるようにする	出番1 学びがいのある学習課題にする
課題解決に向かって、主体的に学習を進めていけるようにする	出番2 自己選択・自己決定のある学習にする
個を生かす協働的な学びの場となるようにする	出番3 必要感のある協働的な学びの場をつくる
児童生徒が学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるようにする	出番4 意味のある振り返りにする



多様な他者との協働の場を設ける

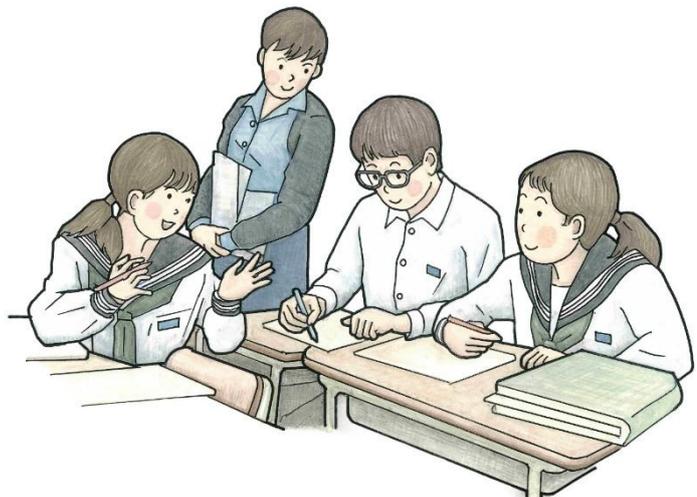
令和3年答申に「探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら」とあるように、資質・能力を育成するためには、多様な他者との協働の場を設けることが大切です。令和6年度の全国学力・学習状況調査では、オンラインで他校の児童生徒と交流する学習場面が取り上げられおり、ICTの活用によって、空間的・時間的制約を緩和し、交流の場を充実できる事例を紹介しています。また、学校行事や児童会（生徒会）活動等を含め学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実させたり、総合的な学習の時間の中で地域の方と一緒に体験する機会を設けたりするなど、様々な場面でリアルな体験を通して学ぶことも重要だと述べられています。

第2章 一体的な充実に向けた4つの「教師の出番」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるために教師が取り組むべき働きかけの視点を、4つの「教師の出番」として整理しました。

4つの「教師の出番」

- 出番1 学びがいのある学習課題にする
- 出番2 自己選択・自己決定のある学習にする
- 出番3 必要感のある協働的な学びの場をつくる
- 出番4 意味のある振り返りにする



第2章 一体的な充実に向けた4つの「教師の出番」



出番1 学びがいのある学習課題にする

児童生徒が、課題を自分事にし、主体的・対話的に学習に向かえるようにすることが大切です。

① 自分事になる学習課題を設定する

次の2つの要件から、学習内容や児童生徒の実態に応じた適切な課題を設定します。

深く考え、自ら解決したくなる

- ・適度な困難さが設定された課題
- ・教科の面白さや奥深さを感じさせる課題
- ・知識や技能を活用しながら挑戦する課題
- ・子供の「当たり前」が揺さぶられる課題
- ・実社会や実生活に関連した課題
- ・単元単位で設定する大きな課題
- ・子供のつぶやきから生まれた課題 など

解決に向けた多様な考え方が生まれる課題を設定することで、深く考えようとする意欲が高まります

集団で解決する必要がある

- ・一人では解決できそうにない課題
- ・他者に相談したくなる課題
- ・他者との学び合いによって解決できそうな課題
- ・みんなで学ぶ価値を感じられる課題 など

協働的に解決しようとする意欲が生まれます

② 見通しをもつ活動を充実する

あわせて、学習対象との合わせ方を工夫し、やり取りの中で、児童生徒一人一人が学習の目的やゴールを明確にするとともに、どのように解決していくか見通しをもつことができるようにします。1単位時間だけでなく、単元の学習の見通しをもつことも考えられるでしょう。児童生徒がどのように課題解決の見通し(結果と解決方法)をもって学んでいくのかを想定し、その学びの姿が実現するように授業を構想していくことで、児童生徒とともに、学びがいのある学習課題にすることができるようでしょう。



～令和6年度協力学校の取組から～

高松市立円座小学校・第3学年 算数科「円と球」

実生活に関連した、みんなで学ぶ価値を感じられる課題

個々にめあてを表出することで課題を自分事になっている

真ん中の人
がずるい!



端の方の人たちが入れ
にくくなっているよ。

今日は、どんなめあてで学習しますか?

全員が不公平な
く、同じように投
げられるようにす
るにはどうすれば
よいだろう



みんなが同じ距
離で投げられる
ようにするため
にはどうすれば
よいだろう。

玉入れゲームの不公平感について話し合う中で、籠からの距離や並び方に課題を見だし、一人一人が自分の言葉でめあてをつくることのできた。自分事の課題となることで、主体的に課題解決に取り組む姿が見られた。



教師の出番

・玉入れゲームをした経験を想起させ、そのときに感じた不公平感について話し合う場を設ける。

・「本時はどんなめあてで学習したいか」と問い、個々に自分の言葉でめあてをつくる場を設ける。

・どのようなめあてをもったか話し合い、本時に取り組むことを明らかにする。

坂出市立松山小学校 特別支援学級 国語科「じゅんじょを考えて分かりやすく伝えよう」
相手意識をもって、知識技能を活用しながら取り組む課題

「○○さんに、順序を明らかに伝えたい」と考えている

「いいな」と思う写真を使って、どんなことをしようと考えていたのかな？



ぼくはCさん!

交流学級の友だちにみかんを分ける様子を紹介しようと考えていたよ。ぼくはAさんに紹介したいよ。

私はBさんに伝えたい



先生の並べ方は、順番がおかしいよ

一人一人が「いいな」と思う写真が撮れたことを想起し、伝える相手を意識することで、「交流学級の友だちに紹介しよう」という学習課題を自分事にするのができた。

教師の例のどんなところが間違っているかについて話し合うことで、順序に気を付けて説明しようと課題意識を高めていた。

教師の出番

- ・選果場見学で、一人一人が撮影したお気に入りの写真を提示し、本時はどんな学習をしたかと考えていたか児童に問いかける。
- ・一人一人の発言を共感的に受け止めながら、めあてを示す。
- ・教師が撮影した写真を誤った順に提示し、気付いたことを交流する場を設ける。

綾川町立綾川中学校・第2学年 数学科「一次関数」

他者と学び合うことで、グラフを用いて考える楽しさを感じられる課題

何を解決するか、どのように解決できそうか見通しをもっている



これって、「うさぎとかめ」の話じゃない？

途中の平らなところはうさぎが休憩しているんだね。

うさぎとかめが同時にゴールするためには、どの条件を変え、グラフがどのような形になればよいか？



同時にゴールするということは、つまりこの部分が交わるということです。



休憩した後に、うさぎが速く走ったら追いつけるんじゃないかな？



うさぎの休憩時間の長さを変えてもよさそうだよ。

コース全体の距離を変えることもできそうだよ。

本時に何を解決するのか、どのような解決方法があるのか見通しをもった生徒たちは、自分に合った方法を選んで解決しようと意欲を高めていた。

教師の出番

- ・動的に示したグラフと、代表生徒の実演を対応させて見せながら、どのような様子を表したグラフか読み取る場を設ける。
- ・「うさぎとかめ」の話に例え、仲良く同時にゴールするためには、グラフがどのような形になればよいか、どの条件を変えればよいか、見通しを話し合う場を設ける。
- ・全体で複数の解決方法があることを共有した後、3つの解決方法に集約し、選択肢として提示する。



出番2 自己選択・自己決定のある学習にする

課題を自分事にした児童生徒一人一人が、課題解決に向かって、主体的に学習を進めていくことができるようにします。

① 学びに関する選択肢を示し、一人一人が自分の状況に応じて課題解決に取り組むことができる学習環境を整える

児童生徒が学びに関する選択肢を選択し、自分の力を発揮できるようにするためには、まずは、その効果を経験し、知ることが必要です。教師は、学習指導要領の内容に照らし、各教科等の特質に応じた学び方等を系統的に学ぶことができるように計画を立てます。どのような学びに関する選択肢があるか、何が選択できるようになればよいかを校内で共通理解しておくよいでしょう。

② 何をどこまで委ねるかを見極め、見取ったことをフィードバックする

そのうえで、児童生徒自身が、これまでの経験を基に自己選択・自己決定しながら課題解決に取り組んでいけるようにします。どのタイミングで委ねるか、何をどこまで委ねるかを見極めることも教師の出番です。委ねて終わるのではなく、個々の学びを見取り、フィードバックしていくことが大切です。協力学校では、児童生徒一人一人が課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるように、支えたり、価値づけたりする先生方の姿が見られました。

自己選択・自己決定のある学習にしていくことが、個々の発想や考えの多様性を生むことにつながり、協働的な学びを充実させるでしょう。

学びに関する選択肢

○学習教材

(例) 社会科：興味関心や問題意識に基づいて事例を選択して調べたり、資料を選択して追究したりできるようにする。

○解決方法

(例) 算数科：見通しをもった解決方法から選択して取り組めるようにする。

理 科：実験方法を構想し、行えるようにする。

体育科：自分に合った練習の場を選択できるようにする。

○表現方法

(例) 国語科：物語を読んでその魅力をまとめる際に、新聞やパンフレット、本の帯など表現するものを選択できるようにする。

○道具

(例) ・端末を用いるか、紙と鉛筆を用いるか選択できるようにする。

・ベン図やXチャート、ボーン図、マトリクス(表)など、目的に応じた思考ツールを選択できるようにする

○学習形態

(例) 一人で考えるか、友達と考えるか(ペアで・グループで・相手を選んで) 選択できるようにする。

○学びのペース

(例) 単元の見通しをもった後、どの内容にどのくらいの時間をかけるか計画して取り組めるようにする。





～令和6年度協力学校の取組から～

高松市立円座小学校・第5学年 算数科「割合」

「解決方法」と「学習形態」を自己選択・自己決定

どの方法を用いるか選択し、友達と協力しながら、粘り強く取り組んでいる



解決方法

- ・線分図：青
- ・関係図：赤
- ・式：黄

学習形態（自由交流）

- ・自分で考えを聞いてみたい
- ・相手を決め、立ち歩いて交流する。

線分図をかいたけれど、自信がないから相談してもいい？



私は、関係図で考えたけれど、線分図でも式が同じになったか確認してもいい？

胸に挿したカードの色を見ながら相手を選んで交流できていた。自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたりして、新たに分かったことがあると、ノートに書き加える姿が見られた。

教師の出番

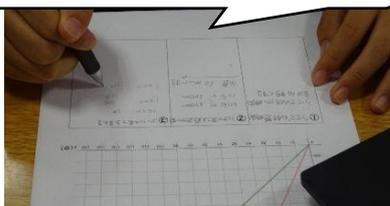
- ・全体で、数直線図や関係図のかき方を確認した後、左のような選択肢を示す。
- ・解決方法に応じた色カードを用意し、自分が使った色のカードを胸ポケットに入れて表せるようにする。
- ・カードを見ながら、個々の学習状況を把握し、個に応じた支援を行う。

綾川町立綾川中学校・第2学年 数学科「一次関数」

「変える条件」や「道具」、「学習形態」を自己選択・自己決定

・どの順に取り組むか計画し、自分に合った道具を選んで解決している

どの解決方法から取り組もうかな。



グラフを動かすと、休憩時間を何分長くすればよいか分かりそう。

3つの解決方法から、どの方法を選び、どの順に取り組むか計画し、主体的に解決に向かうことができていた。また、ICTを用いて自分でグラフを変化させながら考えることができるので、すべての生徒が1つ以上の方法で自力解決できていた。

・一人でじっくりと考えたり、友達と相談したりしながら、粘り強く取り組んでいる



式をつかって計算してみたらどうか。

グラフを伸ばすと交わるのは分かったけれど、具体的に何分後になるか分からないよ。

解決の途中で困ったことがあると、近くの友達に声をかけ、助言をもらっていた。相談し、解決の見通しをもつことで、再度個人で考える姿が見られた。

教師の出番

- ・見通しをもとに、次のような選択肢を示し、どの方法を試すか、どの順に取り組むか自分で計画して取り組めるようにする。

変える条件

- ・うさぎの休憩時間の長さ
- ・休憩後のうさぎの速さ
- ・コースの距離

道具

- ・タブレット
- ・ワークシート

学習形態

- ・一人で考える
- ・友達と考える

- ・机間指導を行い、個別に支援したり、友達との交流を促したりする。



出番3 必要感のある協働的な学びの場をつくる

個を生かす協働的な学びとなるようにします。

① 意図的、計画的に協働的な学びの場を位置づける

児童生徒の実態に応じて、次のような協働的な学びの場を設けることが考えられます。

(ア) 個々の課題に応じた小規模集団での協働的な学びの場

課題解決の途中で、児童生徒が自分の考えをつくったり、確かめたりするために、必要だと感じたタイミングで困ったことを相談したり、考えを交流したりする場

(イ) 教室の中の多様性を生かし、学びを深めるための協働的な学びの場

すべての児童生徒が深い学びを得るために、個々の考えやよい点を尊重しながら交流し、自らの知識や技能を組み合わせたり、新たな価値を創造したりしながら解決を図る場

そして、児童生徒が必要感をもってこれらの場に臨めるように授業を展開します。

(ア) 個々の課題に応じた小規模集団での協働的な学びの場については、協力学校の取組から、前述した自己選択・自己決定がある学習にするための働きかけを行う際、交流のタイミングや相手を学びの選択肢として示すことで、促すことができることが分かってきました。

(イ) 教室の中の多様性を生かし、学びを深めるための協働的な学びの場については、小規模集団での学び合いの質に差があることから、すべての児童生徒が参加できるよう教師が意図的に場を設ける必要があります。一人一人がしっかりと考えをもったうえで参加できるように、単元の中で計画的に位置づけることが大切です。

② 児童生徒同士の交流によって学びが深まっていくように、ファシリテートする

また、次のようなファシリテーターとして児童生徒の思考を方向付ける教師の働きかけも欠かせません。

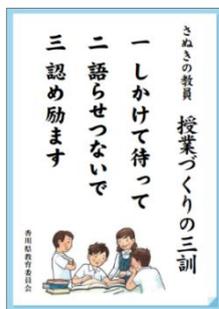
教師の働きかけの例

- ・ 他者の考えと自分の考えの違いや多様な考えを意識できるようにする
- ・ 話し合う目的や視点を明確にする
- ・ 思考を可視化し、比較したり関連付けたりできるようにする
- ・ 問い返しのある学び合いを行えるようにする
- ・ 目的に合った小集団で学ぶことができるようにする

など



※平成30年度研究成果報告書 学びの質を高める授業づくり～主体的・対話的で深い学びの視点から～、H31.2、香川県教育センター を参考に整理し直したものです。



香川県教育委員会義務教育課が示す「授業づくりの三訓」にもあるように、**児童生徒の言葉で「語らせ」その言葉を教員が「つなぐ」**ことで、学びが児童生徒のものになります。

したがって、教師は、児童生徒の反応を予想し、思考に寄り添いながら、肯定的な言葉で称賛したり、児童生徒のつづやきを全体に広げたり、時には、思考をゆさぶったりしながら、児童生徒の頭の中にあることを引き出し、語らせ、つなぎましょう。

※ 令和5年度の協力学校の取組には、児童生徒同士で学びを深めていけるよう、授業を通して「きく力」や「考え方」、「対話の仕方」を身に付けさせていく取組がありました。第3章で紹介していますので、参考にしてください。

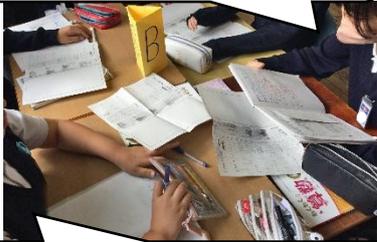


～R6年度協力学校の取組から～

高松市立円座小学校・第6学年 算数科「データの整理と活用」
話し合いを通して新たに得られた視点で、自分の出した結論を見直す場を設ける

友達の考えから新たな視点を得て、自分の考えを再考している

6年生だけのヒストグラムにすると、ちらばりの様子が変わるね。



B店ではなく、C店の方がおすすめの店かもしれないよ。なぜなら、…。

年齢を考えることで、結論が変わったよ。



お勧めのうどん屋を紹介する相手が自分たちと同じ小学校6年生であることに気付いている友達の意見を聞き、年齢で整理された資料を使って、自分の出した結論を見直す姿が見られた。

そして、考えが変容した理由を交流することで、相手や目的に合わせた分析が必要だと気付くことができた。

相手や目的に合わせて、いろいろなデータを見ることが大切だ。



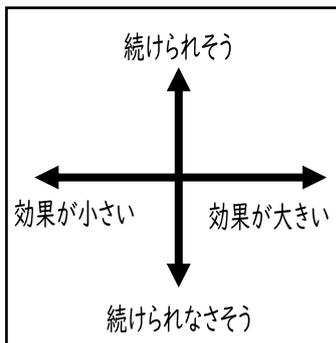
教師の出番

- ・年齢に着目してデータを整理し直している児童の考えを意図的に取り上げ、新たな視点で自分の出した結論について再考する場を設ける。
- ・児童の希望に応じて、年齢で整理し直した資料を配付する。
- ・グループと全体を行き来しながら、自分の考えが変わった、もしくは変わらなかった理由を交流する場を設ける。

高松市立国分寺中学校・第1学年 特別活動「1-5パワーアップ会議」
深めるための視点を明示し、多様な考えを比較しながら合意形成できるようにする

よりよい解決策を見いだすための視点を明らかにし、合意形成を図っている

話し合う視点



「準備を早くする」という意見は、効果は高そうだけど、本当に続けられそうですか？



いつも意見として出るけれど、最初だけで続けて取り組んでいないように思う。別の案を採用した方が続けられると思う。

だったら、当番以外の人も呼びかけたり、手伝ったりするのはどうかな。みんなでも呼びかけたり、協力したりすると、続けられるはず。

生徒司会のもと、2つの視点を意識した話し合いが行われた。一つ一つの解決策について、生活経験と結びつけながら吟味する姿が見られた。

教師の出番

- ・事前に司会の生徒と打ち合わせを行い、「効果があるか」「続けられそうか」といった2つの視点で合意形成していくことを確認する。
- ・机間指導を行い、グループでどのような考えをもっているか把握したり、考えの理由を尋ねたりする。
- ・生徒に司会を委ね、一つ一つの解決策について吟味し、どの解決策にするとよいか話し合う場を設ける。



出番4 意味のある振り返りにする

児童生徒が、自らの学習の進め方を調整していけるようにするためには、学習の過程を自覚し、次の学びにつなぐことができるようにすることが必要です。

① 見通しや探究の場面で、立ち止まって考える場を設ける

そのために、見通しや探究といった課題解決の過程で、自分がそのように考えた理由などについて立ち止まって考える場を設け、メタ認知を促します。見通しをもって取り組んだことの成果や、交流後の自分の考えの広がりや深まりを自覚することで、学習過程に目を向けた振り返りを促すことができますでしょう。

② 振り返りの視点から、自分の学びを価値づける場を設ける

そして、課題解決後には、振り返りの視点から、自分の学びを価値づける場を設けます。もちろん、児童生徒が学び方を知り、次に活用できるように学習活動を計画しておくことが大前提になります。

【振り返りの視点】

- 学習内容
何が分かった(分からない)のか、
何ができるようになった(できない)のか
- 学習過程(学び方)
何に着目し、どのように考えたのか
だれと交流し、どのような視点や方法を得たのか
- 自己の変容・課題の発見
自己の成長に何が必要なのか
次にどのような学びに挑戦したいのか

学び方を学ぶことができるようにするには、授業で、児童生徒がどのような学び方を振り返ることができるのか想定して授業を設計することが大切ですね。



〔学び方を振り返っている児童の記述〕

ふ り 返 り time

☆ 今日の納得ポイント

- ・友だち さんの発表
- ・広げて考える () 時間 () 空間 () 人間(立場)
- ◎ 資料をもとに考える () 地図 () グラフ () 年表 () 図
- () 絵・写真 () ~さんの話

① OOをもとにして考えた(OOを広げて考えた)ので、~ということが分かりました(納得しました)。【なっとくポイント】

② このことを知って、~と思いました。【感想】

③ 次は、~を知りたいです(調べたいです)。OOさんの考え方で考えると、よく分かったので、次は私もOOを広げて考えたいです。【次に頑張りたいこと】

※①~③のうち、どれか1点書きましょう。(2点以上でもかまいません)

◎ 日本は自給率が低いと知っておりました。 さんが働

学び方を、教師も児童も意識

〔学び方を意識した社会科の振り返りシート〕

第3章 協力学校の取組に学ぶ

令和6年度協力学校の取組から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる児童生徒の姿とそのための働きかけ（「教師の出番」）を整理して示します。

また、令和5年度協力学校の児童生徒同士で学びを深めるための働きかけについて紹介します。

（1）令和6年度協力学校の取組に学ぶ

一体的に充実させる児童生徒の姿と教師の働きかけ（「教師の出番」）

- ① 高松市立円座小学校の取組
- ② 坂出市立松山小学校の取組
- ③ 綾川町立綾川中学校の取組
- ④ 高松市立国分寺中学校の取組

（2）令和5年度協力学校の取組に学ぶ

児童生徒同士で学びを深めるための働きかけ

- ① 綾川町立滝宮小学校の取組
- ② 観音寺市立柞田小学校の取組
- ③ 高松市立国分寺中学校の取組
- 教師の発話量を減らし、児童生徒の発話量・活動量を確保した学習

（3）協力学校の取組を振り返って



(1) 令和6年度協力学校の取組に学ぶ 一体的に充実させる児童生徒の姿と教師の働きかけ

① 高松市立円座小学校の取組
第2学年 算数科 「長さマスターになろう」

一体的に充実させる児童の姿

普遍単位の必要性を説明し合う姿

正しく長さを比べるために、使ってみたい道具を選択し、一人で長さを調べたり、友達と協力して比べたりしながら、粘り強く取り組む姿



長さを比べることができたという自信



解決途中で感じた鉛筆を使うことへの疑問

使った道具や調べた結果の違いから、「聞きたい」「伝えたい」という思いを高め、調べて分かったことを意欲的に伝え合う姿



長さが違う鉛筆でも、こうやって長さを写し取れば、比べることができるよ。

みんなで話し合った内容について、立ち止まって考えることで、一人一人が「同じもののいくつかで比べること」の大切さに気付く姿

正しく比べることができなかったのは、消しゴムの大きさが違ったからだよ。



みんなが同じもので比べないといけないね。

鉛筆みたいにバラバラだと比べられない。みんなが「同じもの」で比べることが大事。



「机やいすの長さも比べてみたい。」
「ものさしで長さ比べをしたい」といった記述も見られた。

一体的に充実させる教師の働きかけ（「教師の出番」）

学びがいのある学習課題にするために

・一人一人の問いを生かして課題を設定する

二人の教師が釣った魚の長さを比べている様子を動画で提示することで、課題意識を高める。そのうえで、「今日は何を考えたいですか」と問い、一人一人の問いを引き出し、その言葉をつないで学習課題を設定する。

えっ、使っている消しゴムの大きさが違うよ。

自分たちで、どちらの魚が大きいかが調べたい。



・解決の見通しをもつことができるようにする

ペアで長さ比べをする活動の場を設定し、消しゴム以外でどんな道具が使えるかについて話し合う。

自己選択・自己決定のある学習にするために

・学びに関する選択肢を示し、自己選択・自己決定できるようにする

長さの比べに使う道具

- ・数図ブロック
- ・お金の模型
- ・鉛筆

友達とかかわるタイミング

- ・一人で調べる
- ・友達と調べる

必要感のある協働的な学びの場をつくるために

・児童の発言を生かし、学びが深まるように思考を方向づける

それぞれの道具で長さ比べした結果を視覚的に捉えられるようにしたり、長さ比べをしていて困ったことを共有したりして、正しく長さを比べるために気を付けなければいけないことに焦点を当てて話し合えるようにする。

・学習状況を見取り、意図的にペアで話し合う場を設ける

「同じもので比べることが必要だ」という発言が増えてきたタイミングで、「なぜ、先生たちはうまく長さを比べることができなかったのだろう」と問い、一人一人が自分の考えたことを表出する場を設ける。

意味のある振り返りにするために

・振り返りの視点を示し、選択して記述できるようにする

① 学習のまとめ

- ・大切だとおもったこと
- ・どうやって学んだか

② ともだちのいいところ

- ・やり方
- ・考え方

③ もっと

- ・考えたい
- ・やってみたい
- ・しりたい



② 坂出市立松山小学校の取組
第2学年 算数科 「見方・考え方を深めよう（1）ほうかご何する」

一体的に充実させる児童の姿

テープ図を使って考え方を確かめる姿

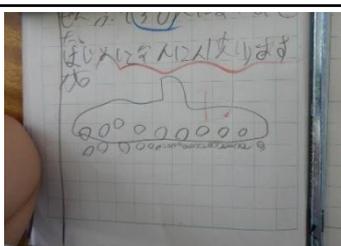
どのような求め方なのか説明するために、自分に合った表現方法や道具を選択し、試行錯誤しながら考えをまとめる姿。

端末を用いて、テープの幅を操作する

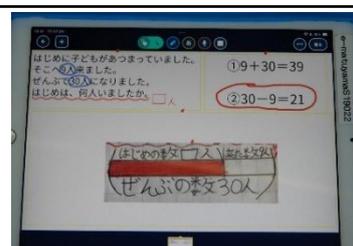


図に整理できたという自信

ノートに、アレイ図やテープ図をかく



ノートにかいたアレイ図やテープ図を撮影する



正しく表せているかという不安

相手を選んで交流したり、全体で友達が困ったことについて話し合ったりしながら、テープ図のよさや使い方についての理解を深める姿

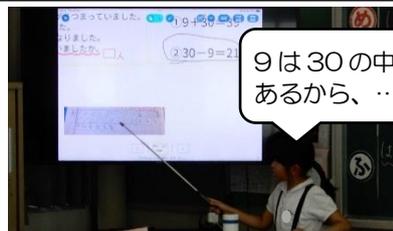
相手を選んで交流

どうして、引き算になるの？



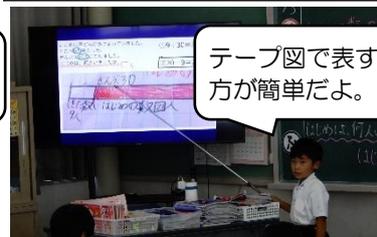
それはね、…。

うまく説明できなかった友達に代わって説明



9は30の中にあるから、…。

友達の考えとつないでテープ図で説明

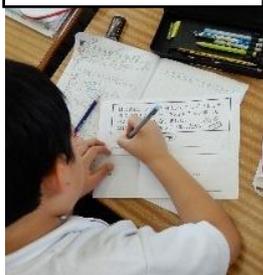


テープ図で表す方が簡単だよ。

話し合いを通して分かったことを使って別の問題を解決したり、解決過程を振り返って自分の言葉でまとめたりする姿

分かったことを活用して適用題を解決

一人でじっくり

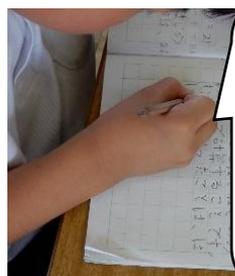


教師と一緒に



友達と確認

解決過程を振り返って、自分の言葉でまとめる



はじめの数がわからないときの求め方がわかりました。
最初は、どんな図をかけばよいかわからなくて難しかったけど、テープ図をかくといいとわかりました。

一体的に充実させる教師の働きかけ（「教師の出番」）

学びがいのある学習課題にするために

・結果の見通しの違いを生かして課題を設定する

問題文の「わかっていること」や「尋ねられていること」を確認しながら、「はじめの数」を求める問題であることを捉えさせた後、結果の見通しについて話し合う場を設ける。「 $9 + 30 = 39$ 」と「 $30 - 9 = 21$ 」という2つの結果に分かれていることから、結果が正しいことを説明しようとする意欲を高め、学習課題を設定する。

足し算と考える人と、引き算と考える人に分かれてしまったね。どちらが正しいのだろう？

その式になる理由を説明しよう。

ブロックで説明したい。

新しく習った「テープ図」も使えそうだよ。



・解決の見通しをもつことができるようにする

これまでに式をつくるために何を用いていたかを想起させ、数図ブロック、絵図、テープ図を使って数量関係を整理すれば解決できそうだという見通しをもたせる。

自己選択・自己決定のある学習にするために

・次のような学びに関する選択肢を示し、自己選択・自己決定できるようにする

表現方法

- ・数図ブロック
- ・絵図
- ・テープ図

道具

- ・一人一台端末
- ・ノート

必要感のある協働的な学びの場をつくるために

考えをまとめることができた児童からクラウド上に提出させ、個々の端末から他者参照できるようにする。そのうえで、次の働きかけを行う。

・考えの違いを可視化し、相手を選んで交流できるようにする

足し算を選んだか、引き算を選んだか帽子の色で立場を表し、話し合いたい相手を選んで交流する場を設ける。

・表現方法の違いを生かして、学びが深まるように思考を方向づける

学習支援ソフトで、不十分な表現から、より簡潔、明瞭、的確な表現となっていくように意図的に異なる表現法を用いた児童の考えを取り上げる。

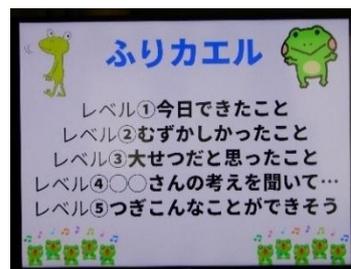
意味のある振り返りにするために

・分かったことを活用する場を設ける

全体で、テープ図の使い方を確かめた後、それを用いて別の問題を解決する場を設ける。「一人で」「友達と」「教師と」といった学習形態を選択しながら取り組めるようにする。

・振り返りの視点を示し、選択して記述できるようにする

右の5つの視点から選択できるようにする。



③ 綾川町立綾川中学校の取組
第3学年 国語科 「観察・分析して論じよう 『ポスター』の批評文」

一体的に充実させる生徒の姿

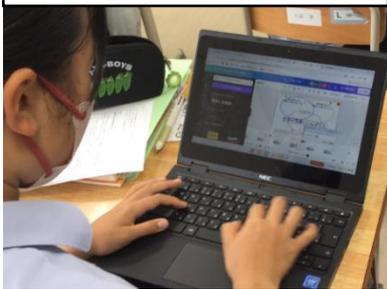
**最も優れているポスターを選んだ際に重視した観点を
比較・検討する姿**

分析方法（思考ツール）を選び、本時に用いる観点（見方・考え方）を意識しながら、自分の考えをまとめる姿

端末上で表を用いて



端末上でベン図を用いて



紙上で PMI 法を用いて



選ぶために重視した観点の整理

「納得がいく考えをつくることができた」
という自信



自分の考えを「伝えたい」、友達のことを「聞いてみたい」という意欲を高め、選んだポスターと重視した観点について積極的に語り合う姿

① Aのポスターが最も優れている。読み手を意識したとき、県外の人が香川県に関心をもつことができるような写真が使われているから。

② でもさ、キャッチコピーがありがたきじゃない？「それだけじゃない」というフレーズは、県内の人にとっては「またか」という印象を受けるよ。



④ 確かに。県外の人に興味をもってもらおう効果がありそうだね。私も写真を見たけど、Bのポスターを選んだよ。なぜなら、…。

③ だからこそ、有名な観光地の写真を使って、香川県の魅力を伝えようとしているんじゃないかな。



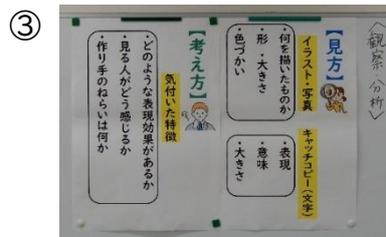
全体交流では、グループになかった友達の考えを聞くことで刺激を受け、観点のブラッシュアップに向けて、積極的に語り合う姿が見られた。

一体的に充実させる教師の働きかけ（「教師の出番」）

学びがいのある学習課題にするために

・学習対象との出会わせ方を工夫する

- ① 学習計画をもとに、生徒一人一人に本時に取り組むことを表出する場を設ける。
- ② 興味・関心が高まるように資料を提示し、やり取りの中で、なぜ公務員のポスターを扱うか、ポスターにはどのような目的があるか共通理解できるようにする。
- ③ 本時に用いる観点（見方・考え方）を明示し、課題解決に生かすことができるようにする。



自己選択・自己決定のある学習にするために

・次のような学びに関する選択肢を示し、自己選択・自己決定できるようにする

分析方法（思考ツール）

- ・表
- ・ベン図
- ・PMI法

道具

- ・一人一台端末
- ・紙のワークシート

必要感のある協働的な学びにするために

・最も優れているポスターを判断するために重視した観点を比較・検討する場を設ける

グループ交流の場を設定し、選んだポスターと重視した観点について、一人一人が自分の考えを発言できるようにする。その後、数名の生徒の考えを全体で共有し、重視した観点について、グループで妥当かどうかを話し合い、全体で共有する場を設ける。



Column

分析方法（思考ツール）のよさを理解したうえで選択する生徒の姿から

授業後に、数名の生徒に「なぜ、その分析方法（思考ツール）を選んだのか」についてインタビューをしたところ、次のような回答がありました。

端末上で表を用いた生徒

書くのが苦手で、時間内に考えをまとめるためには、端末で表に整理した方がよいと思ったから。



紙上で PMI 法を用いた生徒

紙の方が全体を見ながら、印をつけたり、矢印でつないだりしやすいし、どのポスターにもプラスの面やマイナスの面があって、PMI法はそれを整理しやすいから。



これまでの授業を通して、「用いるもの」のよさや「用い方」を理解していることが、有効な学びの選択肢となるための要件になるのではないのでしょうか。

④ 高松市立国分寺中学校の取組
第2学年 社会科 社会の変化と幕府の対策「繰り返される要求と改革」

一体的に充実させる生徒の姿

**時代背景と関連付けて
田沼意次と松平定信の政策の違いについて理解を深める姿**

どちらの政策を支持するかについて、様々な資料を基に考える（選択する）姿

これまでの学習で使ったワークシート



タブレットに新しく配布された資料



教室内に掲示されている拡大資料



同じ政策を支持する友達や違う政策を支持する友達と支持する理由を交流し、自分の考えを深める姿

教室を自由に移動し、相手を選んで交流



理由を明らかにできたという自信

理由の多様性



どちらの政策を支持するか理由を明らかにして交流し、それぞれの政策のよさや問題点についての理解を深める姿

① 田沼を支持する理由は、経済をよくしようとしているから。飢饉のときに、お金があれば貿易で外国に頼ることができる。

③ 田沼の政策でも、お金を生むことで未来につながったはず。



② 松平を支持するのは、七分積金など、（外国に頼らない）未来を見据えた政策を行っていたから。飢饉が多かったからこそ、それに備える考え方がよいと思う。

④ 賄賂があったことから、政治への不信感が生まれている。

一体的に充実させる教師の働きかけ（「教師の出番」）

学びがいのある学習課題にするために

- ・事前調査の結果を示し、考えのずれを捉えさせる



単元を通して「時代はだれを求めたのか」というテーマで学習を進めていたことを確認した後、田沼意次と松平定信の政策にはどのような違いがあったか、また、人々の暮らしにどのような影響を与えたかについて個別に振り返る場を設ける。

そして、事前の「どちらの政策を支持するか」の調査結果を提示し、自分の考えとのずれを捉えさせることで、「もっと深く考えたい」「詳しく調べたい」という思いを引き出す。

自己選択・自己決定のある学習にするために

- ・次のような学びに関する選択肢を示し、自己選択・自己決定できるようにする

資料

- ・これまでの学習で使用した資料
- ・タブレットに新たに配布された資料
- ・教室内に掲示されている拡大資料

学習形態

- ・一人で考える
- ・友達と相談しながら考える

必要感のある協働的な学びにするために

- ・自分の考えへの自信度を捉えさせ、交流の場を設ける

多くの生徒が考えをもてたタイミングで、「選んだ政策とそう考える理由を伝えられるか」と問い、自分の考えへの自信度を捉えさせることで、「同じ政策を支持する友達と相談したい」「違う政策を支持する友達の考えを聞いてみたい」という思いを高める。そのうえで交流の場を設け、相手を選んで交流できるようにする。

- ・ディベート形式で交流する場を設ける

支持する政策に分かれて座り直し、ディベート形式で交流する場を設ける。同じ政策を選んだ者が集まり、必要に応じて相談することができるようにすることで、自信をもって説明できるようにする。

- ・発言内容を可視化し、論点を捉えやすくする

生徒の発言に合わせて、該当する資料を提示したり、キーワード化して板書したりすることで、内容を視覚的に捉えて論点を整理できるようにする。そして、「田沼の『経済』に対して、松平は？」等、議論の方向性を定めるよう発問し、生徒の意見を引き出す。



(2) 令和5年度協力学校の取組に学ぶ 児童生徒同士で学びを深めるための働きかけ



① 綾川町立滝宮小学校の取組



【「きく力」の育成に着目した取組】

綾川町立滝宮小学校では、「聞く hear（一方向）」「聴く listen（半双方向）」「訊く ask（双方向）」の3つの「きく」を考慮した上で、段階を踏んで「きく力」を育成することができるようにしています。

○きき方・きき合い方のステップアップ表

	きき方	きき合い方
段階 1	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の話に興味をもつ。 話し手の方を向いてきく。 うなずきながらきく。 最後まで黙ってきき切る。 大事なことを落とさずにきく。 共感的にきく。 (途中で否定的な反応をしない) 	<ul style="list-style-type: none"> 話題に沿ってきき合う。 きき手と話し手がアイコンタクトをとれる。 尋ねたり、応答したりグループできき合って考えを一つにまとめたりできる。 分からないことを質問できる。
	<ul style="list-style-type: none"> 相手の考えを求める。 考えの理由をきき合う。 不明な点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「～さんは、どう考えましたか。」 「どうして～と考えたのですか。」 「もう一度言ってください。」
段階 2	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の目を見て、うなずきながらきく。 話し手の考えに意思表示をする。 自分の意見と人の意見を比べながらきく。 友達のをきき、その考えを取り入れながら自分の考えにつなげようとする。 自分の考えをもち、友達のを自分のものに取り入れながらきく。 	<ul style="list-style-type: none"> 進行に沿ってきき合う。 互いの考えを比較し、共通点や差異点を明確にしながらかき合う。 よりよい考えを導くために、きき手・話し手が双方向性に高め合う。 (経験・既習・根拠等をもとに) 学級全体できき合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりできる。 相手の質問を受けてきき合う。
	<ul style="list-style-type: none"> 不明な点を確認する。 分かったことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「～とはどういうことですか。」 「～は、・・・ということですか。」
段階 3	<ul style="list-style-type: none"> 話し手に応じて適切にうなずいたり、返事をしたりする。 自分の意見と人の意見を比べ認める。 自分の意見と他人の意見を比べ、共通点や相違点を見付けながらきく。 話し手の工夫や内容を評価しながらきく。 自分の考えを深めたり、新たな考えを生み出したり目的意識をもってきく。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的にきき合う。 相手の意見をきいたうえで、自分の考えを論理的に主張する。 互いに相手を受容し、尊重してきき合う。 分からない点や確認する点を質問し合う。
	<ul style="list-style-type: none"> 共感的に受け止める 	<ul style="list-style-type: none"> 「～は、・・・ということですね。」

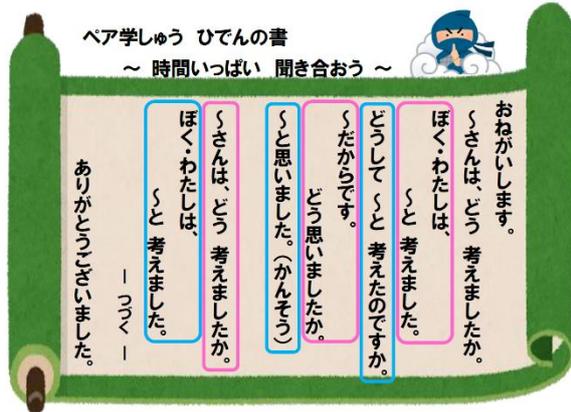
- **めざせ！聞き上手** めざせ！ききじょうず
- **だまって聞く。** だまってきく。
- **相手の顔を見て聞く。** あいてかおみき。
- **うなずきながら聞く。** うなずきながらきく。
- **質問を考えながら聞く。** しつもんかんが。
- **比べながら聞く。** くらべながらきく。



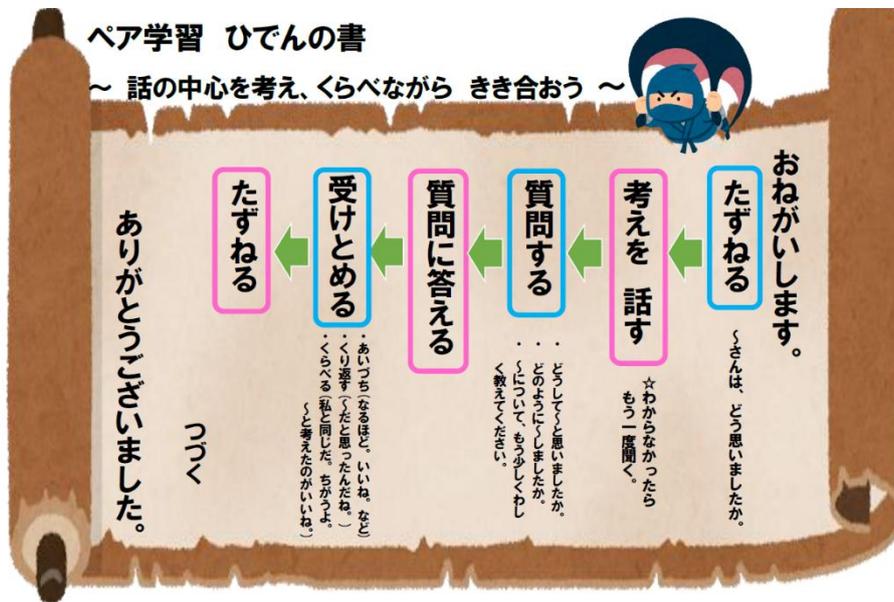
〔自分の考えと比べながらきき、相手の話にうなずく〕



〔自分の考えと比べながらきき、相手に質問をする〕



〔きき方に着目した学習モデル〕



〔きき方に着目した学習モデル〕

「きく力」に焦点を当てた取組を積み重ねたことにより、相手と自分の話を比べたり、関係付けたりする「考え方」も育成されています。このことによって、自己内対話が日常化し、相手への問い返しにつながっていました。

児童が、相手の話を受け止め、話をつないでいくことができるので、教師の発話量を減らして児童生徒が考える時間を確保し、児童自身で考えを深めることにもつながります。



話型に加えて、物事を見たり考えたりする視点を知ることは、気付きを広げ、問いを生み出すことにつながっています。



見方・考え方ヒントカード 3年生

時間	空間	人間
<p>むかしは… 今は… 未来は… 前は… この後は…</p> <p>～目的のところ～ おじいさんおばあさんが 子どものころは… お父さんお母さんが 子どものころは… わたしたちが生まれ 育ったころは… 今から〇年以上前には… 【年以上かけて… 今も昔も… 古い道具を使っていたころは… 昔から伝わる… 〇〇がなかったころは… 〇〇を使っていたころは…</p>	<p>ほかのところで… まわりを見ると… 近くで見ると… 遠くから見ると…</p> <p>～目的のところ～ わたしの家の周りでは… 学校の周りでは… 駅の周りでは… 湖の周り(海の近く)では… 山の周りでは… 田畑の近くには… 空から学校を見ると… 住宅が集まった所では… 川にぞった所では… 〇〇の迷い所では… 私たちの市では… どこの市では… 外国では… ほかの市(県・国)では…</p>	<p>ほかの立場の人は…</p> <p>～目的のところ～ ほかの町(市・県・国)の人は… わたしたちの町に住む人は… 川の近くに住む人は… 〇〇で働く人は… 〇〇を運ぶ人は… スーパーマーケットではたらく人は… 売場ではたらく人は… バックヤードではたらく人は… お客さんは… 農家は… 工場ではたらく人は… 消防署の人は… 通信指令室の人は… 消防団の人は… 警察官は… 〇〇をつくる人は… 祭りに出ている人は… 祭りをしている人は… お年よりは… 体の不自由な人は…</p>

〔(社会科学習における)「見方・考え方のヒントカード」を参考に、対話ドリルを実施〕

対話ドリルの進め方



【STEP1】読み取る力をつけよう！！

- ① 資料・写真等から分かること・見つけたこと(事実)をワークシートに記入する。
神様を目指しましょう。
低学年・・・10個 高学年・・・20個
- ② 意見を交流する。
全員発表を目指しましょう。
同じ意見があればチェックしましょう。
- ③ 今日のキラリ☆と輝く意見を教師が決める。
例えば・・・
 - これから〇〇となっていくのではないかと思います。(時間)
 - 他の地域では〇〇です。(空間)
 - 買う人は〇〇しそうです。(人間)

【STEP2】思考・表現する力をつけよう！！

- ① テーマに対する自分の立場をはっきりさせ、理由を書かせる。
自分の考えをしっかりと持たせ、理由づけできるようにしましょう。
- ② 意見を交流する。(全体・グループ・ペア)
 - ① 意見(私は〇〇にしました。)→理由(なぜなら〇〇だからです。)
 - ② 賛同(なるほど・いいです・へえ～)
(私も〇〇だと思いました。)→理由(わけは、〇〇だからです。)
 - ③ 違う考え(私は・・・・)→理由
 - ④ 質問(質問があります。)
- ③ まとめ・ふりかえりをする(時間が余ったら)
この学習を通して・・・
この資料をみて・・・
〇〇さんの意見を聞いて～(関わりから学んだこと)

Point! **かんげつに！短く！**
分かりやすく！

発達段階に合わせた話型を活用することが、「考え方」を身に付けることにつながっています。また、「対話ドリル」で、他者とだけでなく、資料や自分との対話の仕方を学習しています。

このような取組によって、授業では、児童同士が語り、気付きを広げていくことができました。教師は、ファシリテーターとなるよう心掛けていたので、児童の発言量が多くなっています。



☆心の声を 言葉にしよう☆



【「学び合い」に着目した取組】

高松市立国分寺中学校では、「国中まなびのルール」を基に、生徒が主体的に学び合う取組を進めています。

国中協同学習 **国中まなびのルール**

1. 目と心とで、よく聴こう。
2. 自分の考えや思いを伝えあおう。
3. わからないときは自分から尋ねよう。
4. 訊かれた人は、相手がわかるまで説明しよう。
5. まなびあう雰囲気大切にしよう。




机の高さをそろえ、机はぴったりくっつけるようにしています。



・男女市松模様の配置
・4人班



〔男女のペアでまなびあう〕

実際の授業では、ペア、同じ意見をもつクラスメイト、4人班など様々な形での話し合いが行われていました。ペア活動等を通して、自分の意見を交換し合うことで、互いにまなびあう雰囲気が醸成され、授業後半には、4人班でより高度な課題に取り組むことができていました。また、ペア活動の終了後には私語をする生徒もなく、再び教師の発話に集中している姿が見られ、日常的にペア活動が行われているということが伺えます。

現職教育担当からは、先生方に向けて、「普段の授業から心掛けるとよいこと」として、生徒に対する言葉数を減らすことや、生徒の話を丁寧に聴くことなどが示されています。小学校と違い、教科ごとに教員が入れ替わるので、どの教員も同じスタンスで授業に臨むことは、生徒が安心して学習に取り組むことにつながっています。



また、本年度の取組として、自分で相手を選び、立ち歩いてまなびあう姿も見ることができました。これまで培ってきたまなびあいを発展させ、より生徒が主体的に交流できるようにルールの見直しを図ったそうです。

12月に行われた香川の教育づくり発表会では、生徒の学ぶ姿を見取り、それに応じて「自己選択・自己決定のある授業にしていこう」「生徒を信じて学びを委ねよう」とする先生方の思いが発表されていました。

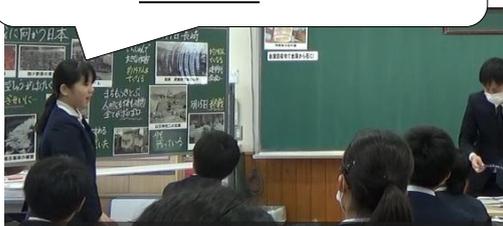


●【教師の発話量を減らし、児童生徒の発話量・活動量を確保した学習】

「この写真を見て分かることは？」と教師が問わなくても、考え方を身に付ける話型などを活用した学習の積み重ねにより、児童が、「それは…」「タイトルは…」といった具合に、写真や資料を見て分かることを発言し始めます。



その鐘では、音が鳴らないので、みんな、困っていましたね。



それは、金属回収令で鐘が回収されたから、石の鐘になっていましたね。



当時の住職さんは…



その人（住職）の気持ちは、音が出なくて悲しい、ということでしたね。



授業中の Point !

教師



- ・オウム返し×、教師と児童生徒の一问一答のやり取りのみ×
- ・児童生徒の話をしっかりと聞き、話の展開を整理
- ・本時のねらいからそれしていないか見極める
- ・児童生徒の表情などに気を配り、形成的評価をする
- ・教師の出番※を厳選

※教師の出番…児童生徒だけでは気付かないところ、ゆさぶりをかけるところなど。



児童生徒



- ・話型なども活用しながら、自分たちで話をつないでいく
- ・ノートやタブレット端末などを用いて、出てきた考えなどを整理しながら書く（情報の整理）
- ・疑問点などを質問し合う（自分にも問い返す）

(3) 協力学校の取組を振り返って

各協力学校の取組には共通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる児童生徒の姿と、個に応じたきめ細やかな指導を行う教師の姿、ともに学び合う教職員集団の姿がありました。ここで本調査研究を通して分かったことと、残された課題についてまとめます。

分かったこと

① 一体的に充実させる児童生徒の姿

各協力学校では、見通しをもつ活動を充実させ、学習教材や解決方法、学習形態等を自己選択・自己決定しながら学ぶことができるようしかけたうえで、児童生徒を信じ、学びを委ねていました。児童生徒は、一人一人が課題解決に「用いるもの」と「用い方」をしつかりと理解できており、試行錯誤しながら粘り強く学習を進めることができていました。例えば、一人一台端末を用いて、自分に必要な情報にアクセスしたり、グラフを操作しながら考えをつくったりする姿が見られました。また、自分のタイミングで友達と交流し、困っていることを相談する姿が見られました。教師が、授業支援ソフトでいつでも友達の考えを参照することができるようにしたり、帽子やカードの色で互いの違いを捉えることができるようにしたりすることで、相手を選んで話し合い活動に臨む姿が見られました。

このような児童生徒の姿は一朝一夕に見られるようになったものではないでしょう。児童生徒が、日々の授業の中で、自分たちで解決の見通しを立てたり、自己選択・自己決定しながら学んだりする経験を積んできているからこそ見られた姿であったと考えられます。何より、児童生徒に学びを委ねるために、協力学校の先生方が、単元や題材など内容のまとまりを通して、児童生徒の課題意識を大切にし、見通しをもって学ぶ姿、課題解決に向かって話し合う姿などを想定して授業づくりを進めてきた成果ではないでしょうか。

② 個に応じたきめ細やかな指導を行う教師の姿

「同じ課題であっても、解決方法が違う」といった複線化した学びの中で、協力学校の先生方が大切にしていたのは、机間指導によって個々の学習状況を見取り、支援したり価値づけたりすることです。



児童生徒が個々に学びを進める中で、児童生徒の言葉に耳を傾け共感的に受け止めたり、手が止まっている場合には別の選択肢を示したり、その子らしく取り組む姿を見つけて賞賛したりと、個に応じてきめ細やかに指導を行っていました。

このような教師の「個に応じた指導」が、児童生徒一人一人の課題解決を支えるとともに、「自分の手で解決できた」といった達成感につながります。そして、このような指導を積み重ねることが、一人一人が自分に合った学び方等を身に付けることにつながるのではないのでしょうか。

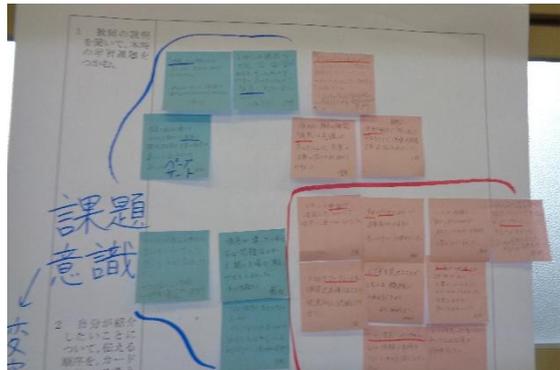
③ ともに学び合う教職員集団の姿

また、授業研究の際、授業者の先生の働きかけに応じて、個々の児童生徒にどのような学びが起こっていたかを見取る先生方の姿が見られました。



そして、授業後には、見取った児童生徒の姿を共有し、一人一人の学びを充実させるために、どのような働きかけが有効だったか、また、どのように改善していくか真剣に討議されていました。このような「ともに学び合う教職員集団」であることが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる児童生徒の姿につながったのだと思います。

各協力学校の討議の様子



高松市立円座小学校

グループごとに、本時の主張点に応じて、設定した働きかけが有効だったか、どのような改善が考えられるか検討

坂出市立松山小学校

全体で個々の付箋を集約し、授業者の設定した支援が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるために有効だったか検討

綾川町立綾川中学校

現職教育主任が作成した授業の振り返りプリントを活用して、取組のよさを共有

協同学習観察シートの記入について

国中協同学習観察シート ○○○○年○月○日(○) ○ 新橋目
第○学年○組 (教科:△△ 授業者:○○○○)

○授業の流れ(1コマ 2分30秒)

授業の流れ	観察項目	教師の動き	生徒の動き			
			Aさん	Bくん	Cさん	Dくん
13:35	①	OOを見せ、ペアでOOについて知っていることを意見交換させる	Bくんに「何すんのわかる？」と話しかける	Aさんからの問いに「わかる」と答える	机にふせて探る	何もしない
13:40	②	○印でチェック				
13:45	③					記述形式でメモをとる
13:50	④					

【授業参観の視点】

- だれと何でつながったか。
- 生徒の学びが、どんなときに進め、そして、どこで戻ったのか。
- 生徒は、わからないところを友だちに聞いているか。
- 教師は、どこで、どのような関わりをしたのか。

～参観者の先生方へお願い～

- 観望でられた形の生徒の活動や発言に賛否を置く。
- 生徒の長所やアプローチを認める。
- NC(声をかき、アドバイスをする、発言を促さるなど)生徒の学びを見逃さず。
- 協同学習観察シートに記入する。

高松市立国分寺中学校

授業参観の視点や対象となる生徒を設定した観察シートを用いて、どこで学びが成立したか、どこに学びの可能性があったかなどを協議

残された課題

① 本質的な学びを得るための自己選択・自己決定する場の充実

自己選択・自己決定する場を設けただけでは、期待する児童生徒の姿が見られない可能性があります。例えば、初めて学習する方法を扱ったとき、どうしてよいかわからず戸惑ってしまうこともあるでしょう。また、一度にたくさんの選択肢を示したとき、いろいろな方法を試すことが目的になってしまい、ねらいとする学びに迫ることができないこともあるでしょう。本時の学習内容と関係のない選択肢であった場合、その使い方を学ぶ時間になってしまうこともあるかもしれません。

協力学校のような児童生徒の姿になるためには、自己選択・自己決定の場が、本当に一人一人がねらいとする学びを得るために適したものになる必要があります。各教科の授業づくりにおいて、どうすれば、これまでの学習の中で身に付けてきた学び方を生かし、各教科特有の見方・考え方を働かせる選択肢になるのか、研究の余地があります。本質的な学びを得る自己選択・自己決定の場の充実を目指したいと考えています。

② 児童生徒に学びを委ねるための単元レベルでの授業づくり

教師の個に応じたきめ細やかな指導が、児童生徒一人一人の課題解決を支えるとともに、「自分の手で解決できた」といった達成感につながるものが分かったものの、その時間の確保はどうすればいいのでしょうか、研究の余地があります。

協力学校のような児童生徒の姿に迫るためには、一斉指導における教師の発話量を減らし、児童生徒に学びのペースを委ねることで、教師は児童生徒一人一人を見取り、フィードバックする時間とすることが考えられます。そのためには、1単位時間ではなく、単元で学びをデザインし、自ら学習の進め方を調整する経験を積みませられるようにすることが必要です。

どのように、単元を通して解決する課題を設定し、児童生徒と一緒に学習の計画を立てるのか、また、どのように、個々の学習状況の差や、興味・関心の違いを、課題の選択に生かしていくのか、研究を進め、自ら学習を調整しながら学んでいく児童生徒の姿を目指したいと考えています。

③ 教科の学びを深めるための ICT の効果的な活用

協力学校では、各教科の特性に応じた学習材を準備し、ICT を用いて児童生徒が自己選択・自己決定できるように工夫された実践が多くありました。このような工夫が、これまでの学習を生かして主体的に課題の解決に取り組み、自然と交流する児童生徒の姿につながっていました。

児童生徒の考えの共有や発表の場面などで ICT の活用が日常化してきている中、このような各教科の特性に応じた学習材を準備し、教科の学びを深めるという視点での活用方法を充実させることを目指したいと考えています。

どの教科の、どの単元で、どのように使うのが効果的なのか研究を積み重ねながら、どのような学習材があるのかを共有していきたいと考えています。

香川県教育センター協力学校

【令和5年度】

高松市立国分寺中学校

綾川町立滝宮小学校

観音寺市立柞田小学校

【令和6年度】

高松市立円座小学校

坂出市立松山小学校

高松市立国分寺中学校

綾川町立綾川中学校

表紙イラスト・挿絵

佐々木 啓祐（高松大学准教授）

参考文献（PDF版ではリンクしています）

[文部科学省「小学校学習指導要領」平成29年3月31日](#)

[文部科学省「中学校学習指導要領」平成29年3月31日](#)

[文部科学省「高等学校学習指導要領」平成30年3月30日](#)

[文部科学省「特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領」平成29年4月28日](#)

[文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領」平成31年2月4日](#)

[文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年6月](#)

[文部科学省「中学校学習指導要領解説 総則編」平成29年7月](#)

[文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」平成30年7月](#)

[文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則編\(幼稚園・小学部・中学部\)」平成29年4月28日](#)

[文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則編\(高等部\)」平成31年2月4日](#)

[文部科学省「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」令和3年3月版](#)

[中央教育審議会『令和の日本型学校教育の構築』を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～\(答申\)』令和3年1月26日](#)



ぎょうせい「新教育ライブラリ Premiere II Vol.2 令和の『個別最適な学び・協働的な学び』」ぎょうせい 令和3年7月1日

奈須正裕「個別最適な学びと協働的な学び」東洋館出版社 平成29年5月

奈須正裕、伏木久始「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を目指して」北大路書房 令和5年11月20日

佐伯正一「講座個別化学習上巻 個別化学習の理論」明治図書 昭和51年12月

田村 学「学習評価」東洋館出版社 令和3年5月

櫻井茂男「主体的に学習に取り組む態度の評価と育て方学びの『エンゲージメント』」図書文化 令和2年6月20日

市川伸一「学ぶ意欲の心理学」PHP 研究所 平成27年8月6日

香川大学附属高松小学校「子どもが問いかける学習」明治図書 昭和48年5月

難波 駿「学び方を学ぶ授業」東洋館出版社 令和6年2月

石井 英真「授業づくりの深め方『よい授業』をデザインするための5つのツボ」令和2年6月

鹿毛 雅治「授業という営み 子どもとともに『主体的に学ぶ場』を創る」令和元年8月

[香川県教育センター「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」令和6年10月](#)

※[香川県教育センター 平成28年度 研究成果報告書『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり アクティブ・ラーニング ノ ススメ in 香川』平成29年2月](#)

※[香川県教育センター 平成30年度 研究成果報告書「学びの質を高める授業づくり ～主体的・対話的で深い学びの視点から～」平成31年2月](#)

※[香川県教育センター 令和2年度 研究発表冊子『個別最適化された新たな学び』に関する調査研究 ～教師の形成的評価+児童生徒の振り返り で授業を変える～』令和3年2月](#)

※[香川県教育センター 令和2年度 研究発表冊子「情報教育に関する調査研究 ～1人1台端末+ネットワーク で学びを変える～」令和3年2月](#)

※[香川県教育センター 令和4年度 研究成果報告書「ICTの効果的な活用による『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた調査研究～1人1台端末環境での授業づくり～」令和5年2月](#)

[香川県教育センター リーフレット「アクティブ・ラーニング ノ ススメ in かがわ」\(Leaf.1～6\) 平成27年6月～平成29年2月](#)

[香川県教育委員会「これからの「さぬきの教員」に求められる授業づくりの三訓と2つの柱」リーフレット 令和3年12月](#)

[香川県教育委員会「令和6年度 学校教育実践の手引き」令和6年2月](#)

※の報告書の閲覧には香川県教育センターがお知らせしている教職員用IDとパスワードが必要です。

香川県教育センター

福田 宏志 牧野 智行 三好 一生 田上 重士 伊賀あづさ
矢野 利幸 天野 歩 大西 俊二 丸尾のり子
岡田 陽一 稲毛 晶 津野 宏起
(令和5年度転出者)
阿見 陽子 福井 章太 小原 将照

令和7年2月発行

令和6年度 研究成果報告書

編集者 香川県教育センター

発行者 所長 福田 宏志

〒761-8031 香川県高松市郷東町 587-1

TEL 087-813-0955 FAX 087-881-3270



KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center